



久留米大学

御井図書館ニュース

No.72 2009年12月1日発行

アーキビストに支えられて

大学院ビジネス研究科長 高 栢 真 一

私は毎年、アメリカに資料収集に行く。それは、自らの研究テーマである「アメリカにおける管理会計の生成・発展に関する研究」のために、それらの資料を必要とするからである。私の研究方法は、企業内部で作成・利用された会計報告書、議事録、あるいは経営者や管理者の間で取り交わされた書簡など、様々な一次資料を整理・分析し、それに基づいて論理構築を行うというスタイルである。したがって、資料収集が滞れば、研究はストップしてしまうことになる。

私がアメリカの図書館・資料館などを訪問した際に一番お世話になるのは、アーキビスト (archivist) と呼ばれる専門職の人々である。一次資料に出会うためには、このアーキビストの助けが必要となる。アーキビストは公文書保管人あるいは記録保管人などと訳することができるが、公文書だけを仕事の対象としているわけではなく、民間の企業などに関する資料や書類なども取り扱う。

アーキビストの主な仕事は、永久に保存する価値があると判断される資料や記録などを整理・保管すると共に、閲覧者の求めに応じ、その人が必要としている資料や記録などの情報を見つけ出し、その情報を深く理解できるように支援することである。アーキビストは政府機関や大学の図書館・資料館だけでなく、一般企業や民間の歴史資料館などでも活躍の場を与えられる。

前述したように、一次資料というのは、誰かが執筆した書物、論文あるいは雑誌などではないので、資料収集はいつも難関の連続である。それゆえ、図書館や資料館を訪れたときには、まずアーキビストに会い、自分が調べたい資料について相談することから始まるが、たとえアーキビストの道案内があつたとしても、捜し求める一次資料に出会えるとは限らない。むしろ、出会えないことの方が多い。図書館や資料館という所は、自分の研究に都合のいい資料がお膳立てされていて、それをすぐに手に入れることができる場所ではない。

だからこそ、その出会いの確率をできるだけ高めるために、アーキビストとの二人三脚は不可欠である。資料収集は、誰も入ったことのないジャングルに分け入り、自分自身の宝物を探し出すのと似ているかもしれない。その際の道先案内人がアーキビストである。アーキビストの支援は、私にとってまさに研究の生命線であるといえる。

「脳の可塑性とネットワーク再構成」

著書「発達障害児の病理と心理」黒田吉孝・小松秀茂 共編

文学部社会福祉学科 3年 高妻利圭

この本の中に「脳の生後発達と脳の可塑性」というタイトルがあり、少し考えさせられた（ネットでもほんの少し調べてみたいという衝動に駆られた）。話の内容は以下に述べる通りのことである。

脳は膨大な数のニューロンで構成されており、それらの形態や機能は、多様で複雑である。さらに、ニューロンは、シナプスを介してネットワークを形成している。ニューロンやシナプスの形態や機能は、決して一定ではなく日々刻々変化している。その結果、ネットワークも多様に変化する。この性質をニューロンやシナプスあるいはネットワークが可塑性を有しているという。

学習・記憶などの高次機能、こころの働きや人格などの形成もこの可塑性により説明される。それは脳の「経験」がニューロンやシナプスの形態や機能を変化させ、ネットワークの再構成を作り出すメカニズムをもつためである。

特に興味を持ったことは、2つある。一つは、ヒトの幼児では、左右どちらか片方目のレンズが生まれつき濁っているために、ものの形をはっきりと見ることができないことがある（先天性白内障）。この場合、白内障を治療しないで放置すると、成長してからこれを手術で除去しても、白内障のあった眼球の視力は回復しないということである。もう一つは、言語の学習能力にも、この脳の可塑性とネットワーク再構成が深く関与していることである。言語を構成している音の最小単位は、音素とよばれるが、生後数カ月以内までは、あらゆる言語の音素を認識できる。しかし、1才頃から、耳にしない音素を判別する能力失われはじめ、思春期までにそのような音素を持つ言語にふれないと、識別能力は永久に失われる。事実、13歳までに殆ど言語と言うものに触れることがなかったある少女の場合、その後の積極的で強力な言語トレーニングを長年受けたにも関わらず、最後まで日常会話さえ獲得できなかった。

このように、ヒトの脳は構造的にも機能的にも生まれた時は同一であっても、脳の「経験」の寡多によってその後の脳の発達が大きく異なることは少しの驚きである。脳の「経験」とはおそらく、この世の森羅万象に対して大いなる関心と興味、さらには冒険心をもって失敗を恐れず味わってみることなのだろう。

江戸時代の予防接種

現在では医療技術の発達により、インフルエンザなどの流行性の疾病には、予防接種など様々な処置がとられていますが、江戸時代以前はまだまだ予防対策が乏しく、疱瘡（天然痘）、麻疹（はしか）、赤痢、コレラなどの「はやり病」で命を落とす人が多くいました。なかでも疱瘡は、激しい発熱と特有の水疱性発疹が特徴で、毎年のように流行し、死亡率が高い疾病でした。地方では赤ん坊が疱瘡に罹ったら、それが完治してから名前をつけていたほどでした。

天然痘の歴史は古く、人間が農耕をはじめて定住生活に入った紀元前 8000 年頃にはすでに発生していたといわれています。日本には、中国や朝鮮半島から 6 世紀頃に流入し猛威をふるいました。8 世紀には西日本から畿内にかけて大流行し、藤原 不比等（659—720）の四人の息子が次々を病魔に冒されました。その後何度も大流行を重ねましたが、効果的な予防法がなく、加持祈祷で鎮静させる時代が続きました。

江戸時代にはいると、天然痘に対する予防対策が具体的にとられるようになりました。久留米藩士の息子として生まれ、後の秋月藩医となる緒方春朔（1748—1810）は、寛政元年（1789）秋月藩領内で天然痘が大流行した時、天然痘患者の痘痂（かさぶた）の粉末を鼻腔より吸い込ませる方法を考案し成功を収めました。この方法は「人痘種痘法」と呼ばれています。

18 世紀末、イギリス人の E・ジェンナー（1749—1823）は、「牛痘（牛が発病する皮膚疾患）に感染した人間は天然痘に感染しない」という当時の俗信をヒントに、牛痘をヒトに移植することによって人痘に対する免疫ができることを実証しました。19 世紀になると、この「牛痘法」は長崎の出島を經由してわが国にも受容されるようになりました。

牛痘法普及に尽力したのは、佐賀藩出身の榎林栄建（1801—75）・宗建（1802—52）兄弟と伊東玄朴（1800—71）でした。三人は、文政年間（1818—30）にオランダ商館医として来日したシーボルト（1796—1866）の鳴滝塾で蘭学を学び、榎林宗建は文政十年（1827）に佐賀藩医となりました。当時の佐賀藩主鍋島直正（1814—71）は、領民が天然痘で夭折することを知って宗建にその治療を託しました。嘉永二年（1847）、オランダ商館からもらい受けた牛痘を使用して宗建の息子に種痘を試み成功しました。同年、藩主直正の息子・淳一郎（のちの直大）をはじめ佐賀藩士の子弟に接種していずれも好結果をもたらしました。

佐賀で成功した牛痘法を全国に波及させるために尽力したのが伊東玄朴です。玄朴は西洋医学の研鑽を積むと同時に、成功した痘苗の活用を訴えて、安政三年（1856）江戸お玉ヶ池に私説の種痘所を設けました。この種痘所がのちに幕府直轄となり、明治時代になると東京大学医学部となります。

現在は WHO の根絶運動により予防接種は廃止されましたが（1976 年）、江戸時代に予防接種が行われ、その研究の一翼を担った人々が意外と身近にいたことを知っておく必要があるでしょう。

（文学部 吉田洋一）



直正公嗣子淳一郎君種痘の図（佐賀城本丸歴史館寄託）

選書ツアー

選書ツアーを平成 21 年 10 月 9 日（金）の 13 時から 16 時、福岡のジュンク堂書店で行いました。平成 21 年 7 月 3 日（金）締切りで参加募集をし、7 月 10 日（金）に御井図書館 3 階の AV ホール（東）で説明会を行いました。16 名の申し込みでしたが、当日は文学部 4 名、法学部 3 名、商学部 5 名の計 12 名の参加でした。



ジュンク堂書店では、文芸が 2 階で社会科学が 3 階になっているため、2 階と 3 階のカウンター横に長い机と椅子、ダンボールを準備していただきました。

選書ツアー当日、図書館からは遠山図書館長と私が書店へ出向きました。

まず、館内にあるカート借りて選書し、2 階と 3 階のカウンター横の机で選書した図書の情報を記入し、図書はダンボール箱に入れて、用紙を提出したら解散してよいこととしましたが、16 時過ぎまでかかりました。



<参加した学生の感想>

- ・選書なんてめったにできることではないので、とても貴重な体験ができた。しかし、5万円まで選書可という条件は思っていた程多くの本を選んで楽しかった反面、時間いっぱいまでかかった。また、選書ツアーがあれば、是非参加したい。
- ・5万円という金額の大きさに驚きました。選書に関しては自分の趣味を優先させてしまうところがあり反省しました。
- ・広くて選書するのが大変でした。
- ・選書した図書の情報を記入する用紙で、叢書名、出版者、版などがわからなかった。
- ・選書した図書の情報を記入するのに時間がかかった。

今回の選書ツアーは、説明会と実施日が3カ月空いていたこともあり、13時に全員が集合せず、欠席者も4名いました。来年度は実施を前期に、説明会も実施日の1週間前に設定すれば、夏季休暇中に本を読んで『知の玉手箱』の原稿にも十分間に合うのではないかと考えています。『知の玉手箱』の原稿に採用されたら、図書カード2,000円分を差し上げます。次回はぜひ皆さんの参加をお待ちしています。

(御井図書課 二又紅美子)



寄贈図書（学内関係者）

受入期間：2009/09/01～2009/11/30 受入分

本学教員著書は、閲覧室1階「寄贈コーナー」に排架しております。

寄贈者氏名	著者	タイトル	出版者
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 1 (法律時報別冊) 1990	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 2 (法律時報別冊) 1991(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 3 (法律時報別冊) 1991(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 4 (法律時報別冊) 1992(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 5 (法律時報別冊) 1992(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 6 (法律時報別冊) 1993(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 7 (法律時報別冊) 1993(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no. 9 (法律時報別冊) 1994(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.10 (法律時報別冊) 1995(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.11 (法律時報別冊) 1995(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.12 (法律時報別冊) 1996(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.13 (法律時報別冊) 1996(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.14 (法律時報別冊) 1997(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.15 (法律時報別冊) 1997(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.16 (法律時報別冊) 1998(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.17 (法律時報別冊) 1998(下)	日本評論社

寄贈者氏名	著 者	タイトル	出 版 者
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.18 (法律時報別冊) 1999(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.19 (法律時報別冊) 1999(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.20 (法律時報別冊) 2000(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.21 (法律時報別冊) 2000(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.22 (法律時報別冊) 2001(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.23 (法律時報別冊) 2001(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.24 (法律時報別冊) 2002(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.25 (法律時報別冊) 2002(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.26 (法律時報別冊) 2003(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.27 (法律時報別冊) 2003(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.28 (法律時報別冊) 2004(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.29 (法律時報別冊) 2004(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.30 (法律時報別冊) 2005(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.31 (法律時報別冊) 2005(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.32 (法律時報別冊) 2006(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.33 (法律時報別冊) 2006(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.34 (法律時報別冊) 2007(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.35 (法律時報別冊) 2007(下)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.36 (法律時報別冊) 2008(上)	日本評論社
朝見 行弘	椿寿夫[ほか]編	私法判例リマークス no.37 (法律時報別冊) 2008(下)	日本評論社

寄贈者氏名	著 者	タイトル	出 版 者
石内 孔治	田坂公著	欧米とわが国の原価企画研究	専修大学出版局
石川 真人	[最高裁判所著]	裁判の迅速化に係る検証 に関する報告書 平成21年7月：概況・資料編	最高裁判所事務総局
石川 真人	[最高裁判所著]	裁判の迅速化に係る検証 に関する報告書 平成21年7月：分析編	最高裁判所事務総局
石川 真人	古賀克重著	集団訴訟実務マニュアル	日本評論社
大家 重夫	大家重夫著	著作権文献・資料目録 2007	著作権資料協会
久留米大学 比較文化研究所	久留米大学比較文化研究所 高良山物語編集委員会編	高良山ものがたり:こうご石はみてござる	久留米大学比較文化研究所 高良山物語編集委員会
堂前 亮平	広島大学文学部 総合地誌研究資料室編	地理学のための学術情報検索システム： データベース GEOGRA	広島大学文学部 総合地誌研究資料室
堂前 亮平	広島大学 総合地誌研究資料センター[編]	広島大学総合地誌研究資料センター 自己点検・評価報告書	広島大学 総合地誌研究資料センター
堂前 亮平	広島大学 総合地誌研究資料センター[編]	広島大学総合地誌研究資料センター 二十年の記録と記憶(Special publication:42)	広島大学 総合地誌研究資料センター
永池 克明	永池克明著	電機産業の発展プロセス：競争力を高める企業戦略	中央経済社
永池 克明	片山栄一著	電機(日経文庫:1702. 業界研究シリーズ)	日本経済新聞社
葉山 アツコ	草野孝久編/秋野晃司[ほか]著	村落開発と環境保全：住民の目線で考える	古今書院

寄贈者氏名	著 者	タイトル	出版者
安永 悟	edited by Gordon H. Bower	The psychology of learning and motivation : advances in research and theory v. 27(1991)	Academic Press
安永 悟	edited by Gordon H. Bower	The psychology of learning and motivation : advances in research and theory v. 28(1992)	Academic Press
安永 悟	edited by Gordon H. Bower	The psychology of learning and motivation : advances in research and theory v. 30(1993)	Academic Press
安永 悟	edited by Gordon H. Bower	The psychology of learning and motivation : advances in research and theory v. 31(1994)	Academic Press
安永 悟	edited by Glenn V. Nakamura and Douglas L. Medin, Roman Taraban	Categorization by humans and machines (The psychology of learning and motivation : advances in research and theory:v. 29)	Academic Press
吉田 洋一	久留米大学御井図書館監修	越智重明文庫目録 : 久留米大学御井図書館所蔵	昭和堂九州支店

* 敬称略



図書館利用状況(2009年度)

区 分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
開館日数		29	27	30	31	30	27	30	29	233
入館者数	前年同期比	-3,125	-4,373	-2,497	-7,384	1,123	-4,292	-3,683	-1,792	-26,023
	学内者	19,800	18,026	22,346	31,625	8,912	8,791	20,600	19,622	149,722
	前年同期比	-5	286	452	-290	-78	-92	399	524	1,196
	その他学外者	1,749	2,035	2,686	1,547	1,375	1,095	1,651	1,666	13,804
地域住民	前年同期比	-27	-5	-24	-20	7	8	5	13	-43
登録者数		44	48	33	39	55	36	33	35	323
貸出冊数 (学 生)	前年同期比	8	-65	78	-364	162	-283	37	275	-152
	全 体	1,609	2,056	2,400	2,648	999	1,084	2,549	2,701	16,046
	前年同期比	50	36	40	-83	22	-158	25	153	85
	内、夜間	364	550	601	646	112	117	657	782	3,829
	前年同期比	-22	111	-12	-74	25	-1	59	18	104
	内、土・日曜	115	286	151	218	172	148	197	235	1,522
	一人当たりの貸出数	0.25	0.33	0.38	0.42	0.16	0.17	0.40	0.43	2.54
貸出冊数 (教職員)	前年同期比	-71	-9	-72	-83	-37	-56	38	77	-213
	全 体	765	370	266	249	140	194	333	278	2,595
	前年同期比	-11	-31	-7	-35	16	-20	-37	11	-114
	内、夜間	38	54	78	68	29	16	63	91	437
	前年同期比	-17	-16	5	-4	10	-16	22	-7	-23
	内、土・日曜	28	21	26	14	29	27	48	21	214
貸出冊数 (その他学外者)	前年同期比	12	51	6	36	95	28	3	15	246
	全 体	197	236	233	120	247	239	243	213	1,728
	前年同期比	3	13	16	34	-1	-7	-21	17	54
	内、夜間	43	85	100	49	22	39	69	72	479
	前年同期比	46	38	-26	2	28	-3	30	-7	108
	内、土・日曜	81	83	54	20	86	63	82	46	515
AVライブラリー 利用件数	前年同期比	-23	-20	-9	16	7	2	-4	0	-31
	学 生	5	2	18	42	11	5	4	11	98
	前年同期比	30	6	-1	-16	88	45	-13	2	141
	教職員	52	46	42	19	97	61	30	42	389
	前年同期比	-7	4	9	12	5	-6	0	0	17
	その他学外者	2	11	12	13	5	1	1	0	45

相互利用 (文献複写) 申込件数	前年同期比	45	-220	-413	-32	-133	-51	-38	-76	-918
	学 生	136	139	146	58	79	115	109	83	865
	前年同期比	-16	-9	49	9	33	-6	25	61	146
	教職員	11	34	78	36	51	37	84	105	436
	前年同期比	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相互利用 (現物貸借) 申込件数	前年同期比	7	-8	-29	-6	-4	-5	-18	-6	-69
	学 生	9	19	15	6	2	2	7	10	70
	前年同期比	-16	4	16	8	-5	-1	4	3	13
	教職員	15	14	25	22	18	19	12	13	138
	前年同期比	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<貸出冊数についての注記>

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. ”夜間”とは、平日の17:00～21:00の夜間開館時間を指す。
*なお、4月1日～4月9日、8月6日～9月25日、2月1日～3月31日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 地域住民への貸出は、7月10日～8月5日、1月4日～1月29日の期間は停止している。
4. 学生一人当たりの貸出数は、平成21年5月1日現在の御井キャンパスの学生数で算出。



編集・発行 久留米大学御井図書館

〒839-8502 久留米市御井町 1635

TEL (0942)44-4015

FAX (0942)43-0348

<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>